稲わらの「すき込み」手順とポイント

収穫作業前の準備（コンバインの設定）

★稲わらの裁断幅を<u>最も短い幅</u>に設定してください。

＊コンバインによっては裁断幅の変更設定ができない場合もあります。

収穫後

<u>翌年の田植期まで作付けしないほ場</u>

① 収穫後の稲わらをほ場一面、均一に散布しましょう（特に、枕部分など）

② すき込みは土壌微生物の活動が盛んな地温の高い11月中旬までに行いましょう。

③ 翌年の水稲にそなえ、ワラを活用した元気な土づくりに取り組みましょう

収穫後

<u>麦を作付けするほ場</u>

① 収穫後の稲わらをほ場一面、均一に散布しましょう（特に、枕部分など）

② 事前にすき込みを行うと、降雨後しばらく播種作業が出来なくなりますので、部分浅耕一工程播種で播種同時にすき込みを行いましょう。

③ 一工程播種を行わない場合は、降雨の影響を受けにくいように、すき込みと播種を組み作業で行いましょう。

④ 耕起時の砕土、播種後の鎮圧をしっかり行い、出芽率を高めましょう。

⑤ WCSの後作の場合、堆肥を施用しましょう。

■わらすき込みの効果

① わらすき込みを繰り返すことで、腐食の低下を緩和できます。
② 根の伸長を促し、土壌が軟らかくなり、耕うん作業が容易になります。
③ 土壌の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できます。
④ 土壌が柔らかくなることで、土膜形成を軽減し、出芽が安定します。

わらは焼却せず、地力向上のため有効活用しましょう！